

## 全体プログラム

### ●ワークショップ 10:00～12:20

As棟 3F As313・314室

10:00～10:05 ■ 主旨説明

10:05～10:35 ■ 講演1「スマートシティ：離島への導入の可能性と課題」

株式会社日立製作所 社会イノベーション・プロジェクト本部  
スマートシティプロジェクト本部 主管技師長 河野通長氏

10:35～11:05 ■ 講演2「電気自動車：地域における活用と課題」

三菱自動車工業株式会社 常務執行役員 CSR推進本部長 兼 社長補佐  
環境担当役員 大道正夫氏

～休憩（5分）～

11:10～11:40 ■ グループ討議

テーマ1：離島におけるスマートシティの導入について

テーマ2：離島における電気自動車の導入について

※グループごとに2～3質問をまとめていただくお時間です

司会：環境経営学会 理事、ニッセイ基礎研究所 上席主任研究員 川村雅彦

11:40～12:20 ■ 講演者との質疑応答

### ●シンポジウム 13:30～17:00

An棟 2F コンベンションホール

13:30～13:45 ■ 開会 総合司会：サステナビリティ日本フォーラム 事務局長 菌田綾子

13:45～14:30 ■ 基調講演「持続可能な町づくり～海士町の挑戦～」

島根県隠岐郡海士町 町長 山内道雄氏

～休憩（15分）～

※質問票を係りのものにお渡しください

14:45～17:00 ■ パネルディスカッション

「地域の発展に再生可能エネルギーはどう貢献できるのか」

パネリスト：（五十音順）

・阿部裕志氏（株式会社巡の環 代表取締役 海士町在住）

「海士で見つけた地域で守るべきもの」

・落合寛司氏（西武信用金庫 理事長）

「西武信用金庫における環境施策」

・小林光氏（慶応義塾大学大学院教授、元環境省事務次官）

「地域の発展と再生可能エネルギー」

・後藤敏彦（環境経営学会 理事 再生可能エネルギー研究委員会

海士町プロジェクトリーダー、

NPO 法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事）

「地域の発展に再生可能エネルギーはどう貢献できるのか」

・泊みゆき氏（NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長）

「バイオマスの利活用による地域活性化の事例」

コーディネーター：

環境経営学会 理事 再生可能エネルギー研究委員会 委員長 青木 修三

## ワークショップ

## 離島におけるエネルギー需給の課題

人口減少と少子高齢化の進む離島は、将来の日本社会の縮図です。一方で、最近では地理上の“新しい価値”も見出されています。その離島が、電力自由化の動きの中で地域とエネルギーの持続可能性問題に直面しています。そこで、再生可能エネルギーも視野に入れて「離島におけるエネルギー需給の課題」について、スマートシティの経験豊富な事業者の方々に講演をいただき、その後に参加者全員で討議します。

なお、このワークショップは、同日午後のシンポジウムに先行して開催するものです。



河野 通長 (こうの みちなが)

株式会社 日立製作所  
社会イノベーション・プロジェクト本部  
スマートシティプロジェクト本部  
主管技師長

1948年東京生まれ。  
1972年東京大学工学部精密機械工学科卒業。同年株式会社日立製作所生産技術研究所に入社。産業用ロボット、生産管理システム等の研究開発に従事。1994年本社情報システム管理本部、2000年情報システム事業部長を歴任し、社内情報システムの構築、運用を統括。2006年より本社技術戦略室、経営企画室主管技師長、スマートシティ事業統括本部主管技師長を経て、2012年より社会イノベーション・プロジェクト本部スマートシティプロジェクト本部主管技師長 現在に至る。



大道 正夫 (おおみち まさお)

三菱自動車工業 株式会社  
常務執行役員  
CSR推進本部長 兼 社長補佐  
環境担当役員

1953年横浜生まれ。  
1976年東京大学法学部卒業。1984年米国ジョンスホプキンス大学高等国際問題研究大学院 (SAIS) 卒業。  
1976年通商産業省 (現: 経済産業省) に入省し、電気料金規制、対米国通商、宇宙産業、貿易管理など多様な業務に携わる。その間に外務省に出向し、OECD 日本政府代表部 (パリ) においてエネルギー問題を担当。1996年に初代リサイクル推進課長として、容器包装リサイクル法の施行、家電リサイクル法の策定に従事。1998年に自動車課長に就任し、自動車リサイクル法の骨格作りなどを担当。その後中部経済産業局長などを経て、2006年三菱自動車工業(株)に入社。現在常務執行役員 CSR推進本部長、環境担当役員兼社長補佐。電気自動車については、2009年の販売開始以前から PR・マーケティングに携わっており、現在に至る。

## ●司会:

川村 雅彦 (からむら まさひこ)

環境経営学会 理事、ニッセイ基礎研究所 上席主任研究員

1976年九州大学大学院工学研究科修士課程修了。  
三井海洋開発 (株) 入社、海底石油関連のプロジェクト・マネジメントに従事。1988年 (株) ニッセイ基礎研究所入社。環境経営、環境格付、CSR、SRI、環境ビジネス、BCP等の調査研究に従事。  
駒澤大学 (環境経営論)、成蹊大学 (CSR) にて非常勤講師。

## シンポジウム

## 地域の発展と再生可能エネルギー

基調講演者：

総合司会：



山内 道雄 (やまうち みちお)

島根県隠岐郡海士町 町長

1938年 海士町生まれ。

NTT通信機器営業支店長、(株)海士総支配人を経て、1995年海士町議に当選。二期目に議長就任。2002年町長に初当選。敢えて単独町制を選択し、大胆な行財政改革と地域資源を活用した「守り」と「攻め」の戦略で、島興しに奮戦中である。島根県離島振興協議会会長、全国離島振興協議会副会長、第三セクター「(株)ふるさと海士」社長



蘭田 綾子 (そのだ あやこ)

特定非営利活動法人  
サステナビリティ日本フォーラム  
事務局長

兵庫県西宮市生まれ。

甲南大学文学部社会学科卒業。1988年、女性を中心にしたマーケティング会社クレアンを設立。現在は住友林業、第一生命保険株式会社、株式会社伊藤園、横浜ゴム株式会社など延べ約400社のCSRコンサルティングやCSR報告書の企画制作を支援。一般社団法人環境ビジネスウイメン理事、環境省チャレンジ25キャンペーン関連事業推進委員会委員、東北大学特別講師などを務める。

## 離島発！地域再生への挑戦

～最後尾から最先端へ～

町政の経営指針『自立・挑戦・交流』～そして人と自然が輝く島～



家督山(あとどさん)から望む菱浦港



『なくてよい。  
大事なことは  
すべてここにある。』  
海士町の生き方を発信する  
ロゴマークです。



海士町は  
「日本で最も美しい村」連合  
に加盟しています  
(2009.10.6)

おきのくに あまちょう  
【隠岐国・海士町】

(H24.10改)

## シンポジウム

## 地域の発展と再生可能エネルギー

パネリスト：（左から五十音順）

**阿部 裕志**（あべ ひろし）

海士町在住 株式会社巡の環 代表取締役

1978年愛媛県新居浜市生まれ。10歳で愛知県春日井市に引っ越し、その後愛知県立旭丘高校に通う。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。チタン合金の研究をする。在学中は「自給自足できるようになること」を目標として、アウトドアサークルと有機農業研究会に所属。大自然の雄大さ、命のありがたみを学ぶ。また、国内海外を自転車やバックパッカーとして旅をする。世界に誇るモノ作りを学びたくトヨタ自動車に入社。生産技術分野で、レクサス等新車種の立ち上げ業務のコーディネーターに携わる。しかし現代社会の在り方に疑問を抱き、新しい生き方の確立を目指して入社4年目で退社。2008年1月、島根県隠岐島にある海士町にて株式会社巡の環を仲間と3名で立ち上げる。2011年4月より海士町教育委員に就任。

**落合 寛司**（おちあい かんじ）

西武信用金庫 理事長

昭和25年4月20日生まれ。神奈川県出身。昭和48年3月亜細亜大学経済学部卒業、同年4月西武信用金庫に入庫し、平成9年10月立川南口支店支店長、平成14年6月常勤理事、平成17年5月専務理事を経て、平成22年6月より現職。

一般社団法人首都圏産業活性化協会 理事  
一般社団法人先端技術産業戦略推進機構 審議役  
中小企業庁 中小企業政策審議会 委員  
中小企業庁 サプライヤー中小企業の事業展開のあり方に関する検討会 委員  
中小企業庁 ‘日本の未来’ 応援会議～小さな企業が日本を変える メンバー  
学校法人亜細亜学園 理事

**小林 光**（こばやし ひかる）

慶応義塾大学大学院教授、  
元環境省事務次官

1973年 環境庁 入庁。  
地球環境局長、大臣官房長などを  
経て、2009年に環境事務次官。  
2011年に退官し、慶応義塾大学大学院教授（現職）。  
環境経済政策、エコまちづくりや公害地域再生（水保）  
に携わる。

**後藤 敏彦**（ごとう としひこ）

環境経営学会 理事 再生可能エネルギー研究委員会  
海士町プロジェクトリーダー、  
NPO 法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事

昭和39年東京大学法学部卒業。  
サステナビリティ・コミュニケーションネットワーク代表  
幹事、社会的責任投資フォーラム理事・最高顧問、グロー  
バル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク理事、環境監  
査研究会代表幹事。  
環境管理規格審議委員会 EPE 小委員会・14005 国内委員会  
委員、環境コミュニケーション大賞審査委員会委員、環境  
パートナーシップ会議理事など。  
著書に「ISO26000 実践ガイド」（共著）ほか、講演多数。

**泊 みゆき**（とまり みゆき）

NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長

京都府京丹後市生まれ。  
日本大学国際関係学部卒、同大学院国際関係研究科修了。  
1989年から富士総合研究所にて、地球環境問題や企業の環  
境対策についてのリサーチに携わる（2001年退職）。1999  
年、バイオマス資源の社会的・生態的に適正な利用促進を  
目的とする「バイオマス産業社会ネットワーク」を設立、  
共同代表に就任。2004年法人化にともない、現職。主な著  
書に『バイオマス本当の話』（築地書館）、『バイオマス産業  
社会』（共著、築地書館）、『アマゾンで採れるメルセデ  
ス・ベンツ』（同）など。経済産業省バイオ燃料持続可能性  
研究会委員、総務省バイオマス政策評価委員会委員、森林  
総合研究所外部評価委員他。関東学院大学非常勤講師。

●コーディネーター：

**青木 修三**（あおき しゅうぞう）

環境経営学会 理事 再生可能エネルギー研究委員会 委員長

1964年、東京大学教養学部（国際関係論専攻）卒業。  
元日本銀行役員。元帝京大学経済学部教授。

< 著書 >

「Capital Markets and Financial Services in Japan（共著）」  
「最近の環境経営をめぐる動き」  
「CSR・・・企業価値をどう高めるか（共著）」